

仕様書

1. 件名

経済安全保障重要技術育成プログラム／ハイブリッドクラウド利用基盤技術の開発／クラウドサービスの社会実装に関する市場・技術動向等に係る調査

2. 目的

ハイブリッドクラウド利用基盤技術の開発は、クラウドの利便性とセキュリティを両立させるための重要な取り組みである。本プロジェクトで開発された技術を社会に実装し、広く活用されるためには、適切な市場や領域、分野、事業ドメインを特定し、その特性を理解することが不可欠である。これにより、技術の適用可能性を最大化し、経済安全保障の観点からも重要な役割を果たすことが期待される。本調査では、2024年度に行ったクラウドに係る国内外の市場動向、技術動向等についての調査結果を踏まえ、ハイブリッドクラウド技術の開発成果を社会実装するための有力な適用先となりうる市場・領域・分野・事業ドメインの特性を明らかにし、今後の技術展開の方向性を示すための情報収集を行う。

また、AI・フェデレーテッドラーニング(連合学習)等の新たな技術潮流や、サプライチェーンセキュリティ・トラスト設計等の最新動向も踏まえ、幅広く俯瞰的な視点で調査を行い、今後の政策立案や技術開発に資する知見を得ることを目的とする。

3. 内容

(1) 市場・領域・分野・事業ドメインの特性に係る調査

ハイブリッドクラウド技術の適用が見込まれる市場や領域、分野、事業ドメインを特定し、それぞれの特性を整理すること。具体的には、各市場・領域の規模、成長性、競争環境、規制状況、技術的要求事項などを分析し、ハイブリッドクラウド技術の導入可能性を評価する。また、国内外の主要プレイヤーや関連する政策動向についても適宜最新の情報収集を行い、技術の社会実装に向けた課題と機会を明らかにすること。

なお、調査初期から特定のターゲット領域に限定することはせず、幅広い候補を俯瞰的に整理し、バイアスを避けて網羅的に調査を行うこと。

また、政府クラウドのデザインにおける、国産プライベートクラウドや、外資のハイパースケーラーと国産のクラウドの混在の在り方についても調査観点として含めること。

(2) 技術適用の成功事例に係る調査

ハイブリッドクラウド技術が既に適用されている事例を収集し、その成功要因や課題を分析すること。特に、技術の導入プロセス、運用上の工夫、ビジネスモデルの変革などに焦点を当て、他の市場・領域への展開可能性を検討する。また、成功事例から得られる知見をもとに、技術の社会実装を促進するための戦略的アプローチを提案すること。

なお、ハイブリッドクラウドとAI（エージェントAI、協調学習、フェデレーテッドラーニング等）やプライベートAIを組み合わせ活用している事例や、サプライチェーン分野でのクラウド活用事例等、新たな技術潮流や分野横断的な事例も積極的に調査対象とすること。

(3) 社会実装に向けた課題と解決策に係る調査

ハイブリッドクラウド技術の社会実装における潜在的な課題を特定し、それに対する解決策を検討すること。具体的には、技術的課題、法規制上の課題、ビジネスモデル上の課題などを整理し、それぞれに対する具体的な対応策を提案する。また、技術の普及を促進するための政策的支援策や産学官連携の可能性についても考察を行うこと。

特に、サプライチェーンセキュリティやデータ連携におけるtrustworthyの設計・運用に関する課題とその解決策についても検討すること。

(4) 進捗報告会

進捗報告会を月次で開催し、関係者と調査の進捗・結果を共有するとともに、その後の進め方等についての議論を行うこと。

4. 調査期間

NEDOが指定する日から2026年3月31日まで

5. 報告書

提出期限：2026年3月31日（火）

提出方法：NEDOプロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って、作成の上、提出のこと。<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

6. 報告会等の実施

委託期間中における中間報告、および委託期間終了後に成果報告会における報告を依頼することがある。

以上